

土木建設業の山辰組（大野町稲畑）は今月開かれた日本建設機械施工協会主催の「建設施工と建設機械シンポジウム」で、同社が開発した工法「ハイブリッド・サイフォン排水装置」について工事現場での実例を発表した。技術の高さが評価され、優秀ポスター賞を受賞した。（杉原康仁）

## ため池排水装置を開発

# 山辰組に優秀ポスター賞

### 大野町の土木業 建設シンポで発表



「ハイブリッド・サイフォン排水装置」が優秀ポスター賞に輝き、表彰状を掲げる馬淵剛常務（大野町稲畑、山辰組）

同シンポジウムは建設機械と施工法に関する新しい技術を発表する場で、論文とポスターの2部門に分か

れて報告する。論文には全国から41社、ポスターには10社が参加した。

同社の工法は、ため池の決壊防止を目的に開発。これまででは1本のホースと水中ポンプ、発電機を使って排水していたが、現在は2本のホースと水中ポンプ、発電機（同社が開発した水の流れの方向を切り替える装置「ワイ・ガッチャン」）を使って排水する。これまでは排水中に発電機を動かすため、大量の燃料が必要だったが、現在は最初の1分間のみポンプを稼働させて排水。ホース内が水で満たされた状態でポンプの電源を切ると、サイホンの原理で水をくみ上げ続けるためコストの削減につながる。

三重県伊賀市や京都市の国土交通省発注の工事で、ため池の水を排水する際に同社の工法が使われた。2016年には国交省が「次

世代社会インフラ用ロボット技術」として認定した。今回のシンポジウムでも「省エネ効果が高く、実用的なレベルに達しており、災害対応のための技術として活用が期待される」と評

価された。発表した馬淵剛常務（38）は「ため池は防災のため事前に排水して水位を下げる必要がある。決壊して住民が被害に遭わないためにも、この装置が役立